

メーヂを作品化しようとした意欲作。「雲離れ」という枕詞がでてくる意外性を持ち味。

給食費を払わぬ親の諸事情が反映さるる明日の献立

峰由美子

「諸事情」という表現にこめた複雑な思いを読みとりたい。給食費を払わない親が、何十人もいれば、当然、給食の材料費は削減されてしまう。作者は学校給食を作る仕事をしているのか。

熊棚に座りて栗の実を食べて人に知られぬ熊のいちにち  
斎藤佐知子

一連中に「熊棚」をうたった次の作もあった。「組み交はし小枝を敷いた熊棚が栗の木に見ゆ冬の日あびて」。冬眼前の熊に取材した作だろうが、一日家にこもっていた日の白画像と読むと面白い。

夕かけてあまた帰り来る椋鳥を収めて鎮まる櫛の度量  
加賀谷実

何十羽、ときには何百羽もの椋鳥の大群を繋った葉の中に抱くように「収める」大櫛が主役。作者の狙い通り、「度量」が一首中でうまく位置をえている。

春空の下に見ておりつややかな馬の臀部の翳りゆくさま  
中西由起子

どんな場所、どんな場面なのか。私は競馬場のパドックを歩く馬が眼前を過ぎてゆく場面をイメージした。鍛え上げられた競馬馬を、すぐ近くで見たとときの大きさと迫力。

この街のおひとりさまに配らるるお守りキット冷蔵庫の中に  
奥津妙子

ネットで探したところ恵那市、宇佐市、津久見市、そして作者の住む臼杵市等で、「安心生活お守りキット」という独居者用の必需品セットが配られているらしい。臼杵市のものであるとつぎのようにある。「救急医療活動などに必要な情報（氏名や血液型などの個人情報、家族や友人などの緊急時の連絡先など）を書いたカードを、500mlのペットボトルほどの大きさのプラスチック製容器に入れ、自宅の冷蔵庫の中に保管しておきます」。ただ事実を表現しながら、時代、個人、高齢者問題が読める一首。

覆われて寝る心地よさ声のない部屋いっばいに星を映して  
鬼束美佐子

プラネタリウムの歌らしい。プラネタリウムというリアルな空間とは次元のちがう不思議な空間の空気感をうまく作品化している。さりげなく置かれた第三句「声のない」が、じつに的確で感心した。

越して来て五ヶ月過ぎぬ思いつつ知らせぬままにあの人もあの人も  
藤島秀憲

引っ越しのあわただしさ、引っ越した後の忙しさ。ふだんとはちがう早さで時間が過ぎる。そんな時間感覚を作品化した作と読む。新歌集『すずめ』を刊行したばかりの作者である。